ふるさとへの思いと絆をつなぐ広報誌

平成27年12月20日発行（毎月1回20日発行）

ふるさとだより

久之浜・大久、四倉、平、小名浜、勿来

2015年 December 12
NO.55

Pick up 各地の復興へ向けた動き

四倉

道の駅よつくら港の周辺では、土地のかさ上げや防潮堤の工事などが進んでいます。11月29日には、建物前のふれあい広場のこけら落としに、四倉中学校吹奏楽部のみなさんが出演。この日は復興の槌音だけでなく、部員たちによる息の合ったメロディーも広場に響いていました。

久之浜大久

ハイジの里山 冒険ラリー
出会いと交流の場・あかいの森

平

とよマルシェ1周年
双葉地域との交流

小名浜

竹カゴを作る西山カゴ店
公園ベンチのタイル作り

勿来

里親の方々へ苗木を贈呈
錦東小津波引渡し訓練

ふるさとだよりの記事が動画で!!

マークのある記事にスマホやタブレットをかざすと動画が見られます!(見方はP11)

震災直後の5月に結成され、久之浜の瓦礫撤去などを行ってきた「久之浜・大久復興支援チーム結」。翌年にはメンバーの金成清次さん、筥崎晋さん、菅野友美さんが大久町の休耕地でオーガニックコットン栽培を始め、無農薬農場「ありがとうファーム」を設立。そして昨年からは筥崎さんが稲作をスタートし、各々が新たな試みを始めています。

赤井大平の高台に広がる二千坪の「あかいの森」。大きな山桜が訪れる人を迎えてくれる千坪の庭には、畑やビニールハウスが点在し、四季折々の花が咲き誇ります。かつては筥崎さんの祖父、賢司さんが暮らしており、震災時には、久之浜の瓦礫撤去などのボランティア宿泊所ともなった場所。その後、筥崎さんの家族が庭や畑の整備を続け、今年春、母親の澄江さんが代表となり「あかいの森」としてオープンしました。ここでは花と野菜の育て方や食育の講習会などを開いています。「自然あふれるこの庭を、多くの方の交流と憩いの場所にしていきたい」と澄江さん。震災を機に人と人とが出会い、新たな繋がりから生まれた森。この場所に人が集い、語り合い、活動することでさらなる連帯が深まることでしょう。

初めて会った子どもたち、広い庭で楽しく一緒に遊びます

上級食育指導士中村寛子さんの食育講座「食の寺子屋」

多くの出会いと交流のため、様々な企画が練られています

久之浜中 海蜂祭

10月23日、久之浜中「第23回海蜂祭」が「響け！大空に向けて104の音色」をテーマに開かれました。午前中は、各学年の総合学習発表、弁論発表や有志による発表。午後には、合唱コンクールと吹奏楽部の演奏が行われました。

学習発表や全校合唱など、生徒数104の音色が響きました

地区市民文化祭

11月3日、久之浜一小体育館で久之浜・大久地区市民文化祭が開かれました。会場を取り囲むように、久之浜写真クラブなどの作品が展示され、ステージでは、フラダンスやエアロビックス、日本舞踊などの発表が行われました。

日頃の練習の成果が披露され、大きな拍手が送られました

復興へ向けた動き

防災緑地植樹へ向けて

久之浜町内で造成工事が進む、長さ1．7㎞幅50ｍ、面積11．2haと東京ドーム2．4個分にもなる広大な防災緑地。植樹の予定本数は6万本弱。今年度2回の植樹祭などで植えられた木々は合計6000本。これからも植樹そして久之浜らしい森づくりを目指して協議も進められています。

平成25年11月、久之浜一小・二小でクヌギやコナラなどのどんぐりが植えられ、苗木作りが始まりました。あれから3年。芽を出し成長した苗木は、小学校校庭から移され植樹の時を待っています。そして、震災以前から交流が続く石川町でも小学生によって苗木が育てられています。3月中の植樹に向け日程等の調整が進んでいます。

商業施設「浜風きらら」キャラクター誕生

久之浜震災復興土地区画整理事業区域内の商業街区に建設される商業施設「浜風きらら」。ロゴが決まり、キャラクター「浜太郎」が誕生しました。浜太郎グッズも浜風商店街で販売中です。

新しく誕生したキャラクター「浜太郎」

ふるさと久之浜の今 工事進捗状況

地盤のかさ上げと末続橋の掛け替えなどが同時に進められています

久之浜漁港から立地区の高台への避難路整備が進んでいます

中浜から田之網方面へ1kmの海岸堤防工事も進んでいます

秋から冬へ　久之浜・大久

第一幼稚園園児防火パレード

11月13日、平第一幼稚園と久之浜第一幼稚園さくら組園児88名による防火パレードが行われました。浜風商店街からJR久ノ浜駅まで、演奏しながら元気に行進する園児たちに大きな拍手が送られていました。

小学校で持久走大会

11月16日、21世紀の森公園で行われた久之浜二小の持久走大会。校庭と学校周辺の公道を使い12月4日に行われた久之浜一小持久走記録会。例年にも増して雪虫が多く飛ぶ寒空の下、額に汗して懸命に走る姿が印象的でした。

ハイジの里山冒険ラリー

大久町の小島さん宅の裏山〈ハイジの里山〉で11月22日、親子参加の冒険ラリーが開かれました。クイズなどを楽しみながら広い里山を上ったり下ったり。冒険の後は手作りピザを食べるなど楽しい時間が流れました。

ベーグルを焼き上げる根本さん

おやつ屋 Meguru

～幸せ気分になれる手作りおやつを目指して～

四倉町下仁井田にある「おやつ屋Meguru」では、ベーグルや焼き菓子、ドーナツなどを販売しています。

主婦の根本恵さんは、震災がきっかけでこの店をオープンさせました。あの3月11日から数日後、次男が生まれて6ヵ月だったこともあり、根本さんは4人の子どもたちを連れて、ご主人の実家がある愛知県に避難。

約3ヵ月過ごした後、いわきに戻る決心をしましたが、避難生活の中で、当たり前の日常を送ることができる大切さを痛感。「いわきに戻ることに不安を感じているかもしれない子どもたちのためにも、できるだけそばにいてあげたい。これまで以上に家族を大事にして、今、自分ができることをやろう」と思うようになりました。

高校時代、小腹が空いた学校帰りに惣菜屋で食べた味噌おにぎりや唐揚げ、共働きの両親に代わって祖母が焼いてくれたパンケーキなどの、手作りならではの素朴な味が、ずっと忘れられなかった根本さん。震災前から子どもたちのおやつの時間や保育園の行事に合わせて、ベーグルや焼き菓子などを作っていましたが、平成25年3月、自宅の裏庭に約3坪のパン工房を建てて、同年5月中旬からお店を始めました。

予約販売やイベントへの出店に加え、今年9月からは平日限定で、〈道の駅よつくら港〉にも納品しています。根本さんがひとりで作るため、平日は午前2時から道の駅用の商品を仕込み、イベント前日には徹夜で約150個のベーグルなどを準備。家族やお姉さんも包装やイベントでの接客を手伝っていて、「周りのサポートには本当に感謝しています」と根本さん。

自身が経験したように、空腹だけでなく心をも満ち足りた気持ちにしてくれる味を目指して、おやつ作りに励んでいます。

バラエティー豊富なベーグル

アリオスのパークフェスにも出店

家族も商品のラッピングやイベントでの接客などで、根本さんをバックアップしています

おやつ屋 Meguru
根本　恵 さん

子どもの頃に出来立ての食べ物で幸せな気持ちにしてもらったのが、大人になった今でも印象に残っていて、「今度は自分が手作りのおやつで誰かを喜ばせてあげたい」と思いながら仕事をしています。将来は、近所の子どもたちがおこづかいを握りしめて来てくれるようなお店ができたらいいなと思っています。

復興へ向けた動き

ハマゴウ移植と地図の除幕式

四倉海岸で防災緑地の工事が進んでいるため、四倉ふれあい市民会議と四倉小学校の6年生は11月20日、希少植物ハマゴウの植え替えをしました。

長年、ハマゴウの保護と植栽に努めている四倉町北向の芳賀博さんが生態などを説明した後、参加者はシャベルやスコップを使ってハマゴウを掘り出し、四倉海水浴場の駐車場にあるヤシ並木の周囲に移植しました。

また同日、同小の昨年と一昨年の6年生が作った「よつくらまちあるきマップ」の看板が完成して、お披露目されました。

ハマゴウを移植する6年生たち

道の駅北側駐車場に設置されたマップ

工事で地震に強い公民館へ

平成27年3月25日から始まっていた四倉公民館の耐震化工事は、鉄骨ブレース補強を行うなどして、10月30日に完了。敷地内の駐車場も使用可能になりました。

市民文化祭で活動成果を披露

「第42回四倉地区市民文化祭」が四倉公民館で開かれ、各サークルが日頃の活動の成果を発表しました。芸能の部では合唱、舞踊、民謡、体操などがステージで披露され、展示の部ではパステル画、川柳、絵手紙などの作品が会場に並び、来場者の目を楽しませました。

参加者の熱演が光った芸能の部(11月3日)

多くの力作が並んだ展示の部(11月7、8日)

四倉ピックアップ

約8kmをウォーキング

大浦小をスタートして大浦公民館を目指す参加者

「第13回大浦ふれあいウォーキング大会」が11月22日に開かれ、200名を超える参加者は、地域の史跡を巡りながら、約8kmを歩きました。

踊り手が四倉に集合

華麗な衣装で踊る参加者

CHECK! 動画が見られます!

11月8日、道の駅よつくら港で、「いわきDE YOSA来い!秋祭り2015」が開かれ、県内外から多くの踊り手が参加し、エネルギッシュな踊りを披露。

奥会津と四倉が交流

サンマの加工体験も好評(28日)

CHECK! 動画が見られます!

11月28、29日に道の駅よつくら港で、会津の三島町との交流祭「海山味寄港(うみやまあじきこう)」が開かれ、特産品や新そばの販売などが人気を集めました。

折り紙教室が大人気

サークルのメンバーに折り紙を教わる親子

11月15日、クロスオーバージャパン主催で、東京大学折り紙サークルOrist(オリスト)のメンバーが、ふくまるで折り紙教室を開き、家族連れが参加しました。

11月29日、日曜市が催されました

〈豊間区より〉
遠藤守俊豊間区長

団地住民の手助けとして立ち上げて、早いもので1年が経過し、区画整理事業や仮設店舗での営業もあと2年となりました。地域の商業再生目指し前進していきたいです。

〈中華はまや〉
店主・馬目正幸さん

不安なこともありましたが、新旧のお客さんに支えられ、あっという間の1年でした。昔なじみのお客さんの顔が見れたことやお客さん同士の交流ができたことも良かったと思います。

とよマルシェ 1周年

地域住民の利便性やコミュニティの再生のために昨年12月開店した復興商店「とよマルシェ」。この1年振り返りました。

〈B&Bきゅういち〉
店主・遠藤玲子さん

地域の憩いのカフェと簡易宿泊できるトレーラーハウスを用意して挑んだ1年。集客に苦労したこともありましたが、今後も身体に良い物を提供していきたいです。

〈ウロコジュウ〉
店主・金成勝弘さん

1年間やってみて、対面商売ならではの地域との繋がりができて、店自体の存在意義が感じられました。また、団地に住んでいる高齢者から配達できないかと要望もあり現在前向きに検討中です。

豊間地域の名産品ポーポー焼き

〈豊間屋〉

以前は〈ベジタブルshiga〉でしたが、オーナーの志賀文彦さんが牛乳工場再建に向け多忙につき、地域住民の協力で12月より店名も改たに土、日曜営業で再開しました。日用品や「豊間協働加工販売」の名産品などを販売します。

地域と向き合う店づくりを目指す

双葉地域と交流（薄磯区）

11月10日、豊間・薄磯地区整備工事「薄磯PRルーム」で原発事故で避難生活をしている双葉地域の人たち約60名と薄磯地区の区役員の始めての視察・交流会が行われました。

この交流会は、双葉町の「いわき・まごころ双葉会」が、多くの町民がお世話になっている、いわき市をもっと良く知ろうと企画した「いわき市再発見バスツアー」の一環で、薄磯地区に申し入れがあり、実現しました。鈴木幸長薄磯区長は「津波被害も原発事故も同じように人命や町を失いました。これからも交流を深めていきたい」と話していました。

全員で犠牲者に黙祷し、交流会が始まりました

津波被害を受けた方もおり、思いを共有されていました

鈴木薄磯区長が震災から現在までの復興の歩みを説明

雨天にも関わらず多くの参加者があった交流会

復興へ向けた動き

豊間中学校新校舎安全祈願祭・起工式

11月19日、津波で被災した豊間中学校の校舎改築工事の安全祈願祭と起工式が豊間小学校西側に隣接する新校舎建設予定地で行われ、行政、学校、地域、建設の関係者が早期完成と工事の無事を祈願しました。

新校舎は鉄筋コンクリート3階建てで、1階には津波で被災し、現在休止中の市立豊間保育園や放課後児童クラブも併設され、小学校とも渡り廊下で連結します。

保育園から中学校までが一体となった新しい学校形態となり、平成28年度中の完成を目指します。

現在の中学生たちは、平成24年から豊間小学校校舎を間借りして学校生活を継続しています。不便ながらも小学校と協力し、合同で避難訓練や運動会を行い連携を深めています。今後は保育園を含めた新しい連携が求められますが、今まで培われた経験と強い結束力で地域を結び続けるでしょう。

「未来を担う人を多く輩出することを願う」と清水敏男市長

校舎のほか体育館やグランドも整備されます

薄磯の高台造成地から建設予定地を望む

津波避難場所ガイド

- 豊間八幡神社
- 住所／平豊間字八幡町72
- 面積/133㎡
- 海抜/12.4m

平地区ピックアップ

女性会から寄贈

11月16日、いわき商工会議所女性会は、本庄、佐世保、亀山の各商工会議所女性会より寄付された義援金を活用し、薄磯と豊間団地の集会所にエアコン各1台と古書を寄贈しました。

いわきの女性会佐藤弓子会長から目録と古書が渡されました

3地区合同秋祭り

11月8日、豊間小学校で豊間3地区合同秋まつりを開催。石川県のボランティアチームの協力で模擬店や和菓子づくり金箔貼りなどの体験コーナーがお目見えし、賑わいを見せました。

九谷焼の体験。絵付けシールを貼る参加者たち

豊間公民館まつり

11月1日、豊間公民館で公民館まつりが行われ、日々のサークル活動の成果を展示しました。芸能の部では地元の子どもたちによる「あんばさまの唄」や「獅子舞」などが披露されました。

けん玉体験では山木弘行名人が実演しました

心を込めて手作りする竹カゴ

西山カゴ店

この道60年の西山さん。東京の店から万漁カゴの注文があり、手ぎわ良く竹を編んでいます

古湊にある〈西山カゴ店〉は、西山昭一さんが父の亀三さんの後を継ぎ、手作業で竹カゴを制作しています。

昭和45年頃までは小名浜港で魚の水揚げに使用する万漁カゴを制作していました。当時の小名浜にはカゴ屋が8軒ありましたが、月日が流れ、プラスチック素材のカゴが主流になるにつれ、漁業関係の竹カゴが作られなくなり、現在小名浜のカゴ職人は西山さん1人となってしまいました。しかし県外から注文があり、果物カゴや背負いカゴなどを作り続けています。

大震災の時、仕事中だった西山さん。津波が来ることを聞き、奥さんの英子さんと車で娘さんが住んでいる湘南台まで避難しました。無事だったものの自宅兼作業場には1・7mも津波が入り、大規模半壊に。刃物などの道具は塩水につかり、使い物にならなくなってしまいました。作業もできず辞めてしまおうかと考えていたところ、取引先から「大変ですけど、作ってください」との言葉をかけてもらい、継続を決意。軌道に乗るまでは1年ほどかかりました。

現在も東京や栃木、京都などから注文を受け制作。また、アクアマリンパークで行われている物産展にも出店し、販売しています。「みんなに好かれるような丈夫なカゴをこれからも作り続けたい」と、今日も西山さんはじっくりと時間と手間をかけ、心を込めてカゴを作っています。

できあがった万漁カゴや果物カゴ。万漁カゴは現在、日常生活の中で使用されています

陶器で彩る公園ベンチ

秤屋さんに教わりながら絵を描く児童たち

CHECK! 動画が見られます！

津波被害を受けた小名浜港公園を新しく整備するにあたり、流失したベンチを新設し、ここに貼るためのタイル作りを10月27日と11月2日、小名浜第二小学校5年生が行いました。講師は陶芸家の秤屋苑子さん。1回目は粘土で形を作り、動物や食べ物、文字などそれぞれ好きな物を描きました。2回目は特殊顔料で色を塗りました。秤屋さんが釉薬かけや焼成をしたのち、来年の5月中旬、児童がベンチに貼りに行く予定です。

色塗りも真剣に行いました。「早くベンチに座りたい」との声も

復興へ向けた動き

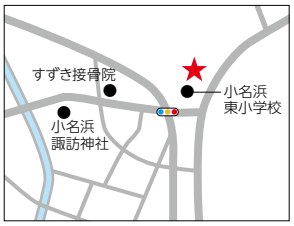
小名浜港湾建設事務所の新庁舎工事進捗状況

庁舎が津波被害に遭い、業務が行えなくなったことから、現在は横町に場所を移している県小名浜港湾建設事務所。平成27年3月から、〈いわき・ら・ら・ミュウ〉向かいに新庁舎の工事が進められています。建物は鉄筋コンクリート造の3階建て。完成は来年の3月を予定しています。

屋上には太陽光パネルも設置予定

津波避難場所ガイド

●小名浜第二中学校校庭



●住所／小名浜岡小名字池袋11
●面積　20,117㎡
●海抜　12.7m

●小名浜第一小学校校庭

●住所／小名浜岡小名字台ノ上1-1
●面積　7,813㎡
●海抜　16.6m

みんなの心を一つに 江名中学校たてやま祭

10月31日、小名浜市民会館で「たてやま祭」が行われました。3年生や有志の生徒によるダンスや松原朱里さん(3年)による英語弁論発表、江名諏訪神社文化伝統保存会のみなさんによる三匹獅子などを披露。

また、音楽祭ではクラスごとに今までの練習の成果を披露し、来場者は生徒たちの若さ溢れる力強い歌声に聞き入っていました。

音楽祭で学校賞に輝いた3年3組。自由曲は「手紙」

CHECK! 動画が見られます!

小名浜ピックアップ

福島県の水産物を知るツアー

11月8日、小名浜魚市場で港区在住の小・中学生の親子が参加し「福島の水産物を知る!モニターツアー」が行われました。施設見学や解剖などの体験をし、被災地域にある小学校の取り組みを聞きました。

元豊間小学校校長の水谷大さんの話しを聞く参加者

永崎団地で初開催イベント

11月12日、永崎団地集会所で初めてのイベントが行われました(市社協主催)。曹洞宗のボランティアの方が講師となり、ビーズブレスレット作りを学び、38名の参加者は思い思いに作り楽しみました。

ビーズ選びに真剣な参加者のみなさん

美味しくいただく牡蠣祭

11月22日、〈いわき・ら・ら・ミュウ〉で行われた「第2回牡蠣祭」。各店舗には牡蠣にちなんだメニューが並んだほか、牡蠣大鍋試食会もあり、牡蠣がふんだんに入った鍋を食べて体を温めていました。

市内外から多くの来場者が訪れ、行列ができた試食会

震災を乗り越え、営み続けた店

錦町〈助川スーパー〉
助川　ひとみ さん
　　祐　規 さん

昭和36年、錦町鷺内地内で創業した〈助川スーパー〉。現在は店長の助川ひとみさんと息子の祐規さん、従業員1名の計3名で切り盛りしています。

いつものように店を営業していた震災当時。店内にいたひとみさんは、お酒が並ぶ商品棚を押さえながら揺れが収まるのを待ちました。しばらくすると「10mの津波が来ます」という広報車の知らせを受け、勿来体育館へ避難。祐規さんは入団している消防の活動に向かったそうです。

その夜、「水は来てなかったよ」という近所の方の話を聞いて帰宅。幸い津波は店の1m手前で止まっていたそうですが、店内や2階の自宅は、物が倒れ、床には亀裂が入るなど半壊の被害を受けました。しかし震災直後でも、物資の供給が間に合わなかったことで訪れるお客さんの姿があり、片付けを行いながら営業を続けたそうです。

「震災後しばらくして、お客さんから『お世話になりました』と言われた時は、店を開けて良かったなぁと嬉しく感じた」と笑顔を見せるひとみさん。店には震災の爪痕が残ったままですが、現在も同じ場所で営業を続けています。「個人商店が減っていくなかで不安も感じますが、周りの状況を見ながら来てくれるお客さんを大切に、責任を持ってやっていきたい」と思いを話しました。

約35年ほど前にひまわりチェーンに加盟。現在はブイチェーンとなっている同店

未来の人・町を守る木々 いよいよ里親のみなさんへ

岩間町に整備される防災緑地に植樹するため、昨年より岩間・小浜町内で、ドングリや広葉樹の苗木採取を行ってきた、NPO法人勿来まちづくりサポートセンター。

11月23日に贈呈式が行われ、育ったコナラの苗木約80鉢が里親の元へ引き渡されました。

なこそ交流スペース ガーデニングで心に安らぎを…

公益財団法人国際花と緑の博覧会記念協会による「花とみどりの復興活動支援事業」の助成を受け、佐糠町の〈なこそ交流スペース〉裏手に、サロン利用者のための癒しの場が完成しました。

ベンチも設置され、素敵な空間に仕上がりました

岩間町サロンの参加者や復興プロジェクトのメンバーが制作

復興へ向けた動き

小浜・岩間地区 復興対策協議会が発足

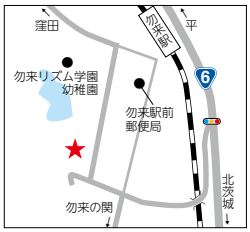
10月27日、小浜・岩間地区復興グランドデザインの推進体制発足に向けた会議が行われました。協議会会員は、小浜地区17名、岩間地区10名の合わせて27名。そのなかから13名が役員として選出・可決されました。

また、11月24日には第1回の役員会が開かれ、今後の事業計画および予算案について話し合われました。

同地区のグランドデザインを基に、事業を進めていきます

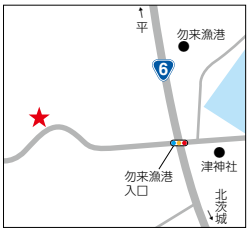
津波避難場所ガイド

●勿来第二中学校校庭



●住所/勿来町関田北作6
●面積/9,011㎡
●海抜/11.3m

●入町奥高台



●住所/勿来町九面横石地内
●面積/39㎡
●海抜/25.6m

勿来と双葉の共生 コミュニティデザイン事業

11月16日、第10回が双葉町役場いわき事務所で開かれ、復興公営住宅の現状報告などについて、情報共有が行われました。

また、10月4日に開催した「くぼたんけん」（本誌54号参照。）について意見交換を実施。参加者からの声や反省点などを生かし、窪田地区周辺の名所や店、散歩コースなどをまとめた、居・食・住に役立つ案内マップを年度内に作成する予定です。

くぼたんけんを振り返りながら、マップに記載する情報を議論

勿来ピックアップ

津波を想定した引渡し訓練

11月7日、 地震による津波発生を想定した避難訓練が、錦東小学校で実施されました。大津波警報が発令され、子どもたちは3階の音楽室へ避難。解除後には、保護者への引渡し訓練も行われました。

緊急地震速報発生の放送が流れ、机の下に入る子どもたち

日ごろの練習の成果を発揮

11月8日、平成27年度勿来地区市民文化祭の芸能祭が、勿来市民会館で行われました。同地区で活動するサークルのほか、双葉の方々による3つの団体も参加。演奏や踊りで会場を盛り上げました。

箏曲や舞踊、民謡など様々な芸能を披露

CHECK! 動画が見られます！

カラフル綺麗なブレスレット

11月12日、市社協の主催で、関田団地の集会所に曹洞宗のみなさんが訪れ、ビーズブレスレット作りを実施。お茶菓子の振る舞いや紙芝居もあり、会話を弾ませながら和やかな時間を過ごしました。

好きな色の石とビーズを使い、思い思いにブレスレットを作製

いわき市 ふるさとだより 第55号
平成27年12月20日発行
●発行いわき市 ●編集:有限会社 いまじゅ ふるさとだより編集室
●編集室:〒973-8411 福島県いわき市小島町3丁目3-3 プリンセス・アイ1F
Tel&Fax:0246-26-5157
Mail:furusato@asally.co.jp http://www.furusatodayori.com

お知らせ 「いわき市震災メモリアル事業」提言書を提出

市では、今年6月より、震災メモリアル事業に伴う検討会議を実施し、5回の委員会と視察を経て、提言書にまとめました。「震災の記憶と教訓を未来に伝え、災害に強いいわき市を築くとともに、復興まちづくりを支える人と地域をつなぐ」という基本理念の実現に向けて、以下5つの基本方針に基づき推進するもの。

- いわき市における現在進行形の災害の記憶を未来に伝えるアーカイブを構築する
- 震災の記憶と教訓を未来につなぐ学びの場をつくる
- 各地域における復興に向けた取組みと未来を担う人材の育成を支援する
- 震災遺構を入口とした地域発見と発信を行い地域振興につなげる
- 追悼と鎮魂の場をつくる

この提言書は11月9日、清水敏男市長へ提出されました。

プチ講座 Part.5
なるほど！いわきの歴史コーナー
～袋中上人(たいちゅうしょうにん)～

袋中上人は天文21(1552)年、いわき市常磐西郷町で生まれました。14歳の時、能満寺(のうまんじ)で出家し袋中と名乗るようになりました。その後、平山崎の如来寺(にょらいじ)や専称寺(せんしょうじ)で学問を積み、慶長4(1599)年には、戦国大名の岩城貞隆が飯野平城内に建てた菩提院(ぼだいいん)の住職に招かれました。しかし、関ヶ原の合戦により岩城家が没落したのを機に、袋中上人は明(みん)(中国)に渡ることを決意。実行に移しましたが、入国は許されず琉球(りゅうきゅう)(沖縄)に上陸し、3年間にわたりこの地で仏の教えを説きました。また、琉球の歴史をまとめた『琉球神道記(しんとうき)』(国指定重要文化財)を著しました。

なお、袋中上人の企画展が〈いわき総合図書館5階〉で、来年1月24日(日)まで行われています。

「袋中上人像(尚寧王画賛(しょうねいおう))」
(提供:檀王法林寺(だんのうほうりんじ))

できごと PICK UP
応急仮設住宅や災害公営住宅ほか市内各地のイベントやできごとを紹介

10月31日 いわき大交流フェスタ開催〈平体育館・平市民運動場〉

市内の交流サロンや復興支援団体が集結し、作品展示・体験など約40のブースを展開。特設ステージでは、市内の小・中・高生などによる歌や演奏、ダンスが披露され、観客を魅了しました。

展示品を眺める親子連れの姿

CHECK! 動画が見られます!

11月2日 韓国からの贈り物〈中央台高久第一応急仮設住宅〉

今年は日韓国交正常化50周年の節目ということもあり、日本と韓国の親善交流の象徴である「朝鮮通信使」の使節団ら約30名が同住宅を訪問。自転車30台を寄贈するなど応援の意を伝えました。

自転車を受け取る代表の馬上武夫さん(写真右)

各地の復興工事進捗状況

市災害公営住宅 入居開始〈常磐湯本下浅貝団地〉
11月末現在

11月26日、市災害公営住宅「下浅貝団地戸建住宅」の完成式と鍵引渡し式が行われました。2LDK6戸、3LDK7戸の全13戸。11月30日より入居が開始されました。

ふるさと伝言板

将来のライフプランを無料で個別アドバイス!

「住まいと暮らしの再建相談会」

◆日時　1月17日(日)
①10:00　②13:00　③15:00 (各90分程度)
◆場所　いわき産業創造館
◆定員　9組 (各時間3組)

※お申し込みは開催日の3日前まで。
【予約・問い合わせ】　市ふるさと再生課　☎0246-22-7437

ふるさとだよりの記事が動画でも見られます!

① COCOAR アプリをダウンロード
iPhone/iPad 「AppSTORE」から
Android 「Google Play」から

②インストール後、アプリを起動するとスキャン画面になります。
③スマホをかざして画像をスキャンします。
④認識するとコンテンツが表示されます。

※画像に光が反射しないようにスキャンしてください!
注)ネット環境によって表示に時間がかかる場合があります。